

クリーニングコース 学習プリント①

I クリーニング絵表示を覚えよう！

①洗濯の仕方について

	・液温は95℃を限度とし、洗濯機で洗濯ができる
	・液温は70℃を限度とし、洗濯機で洗濯ができる
	・液温は60℃を限度とし、洗濯機で洗濯ができる
	・液温は60℃を限度とし、洗濯機で弱い洗濯ができる
	・液温は50℃を限度とし、洗濯機で洗濯ができる
	・液温は50℃を限度とし、洗濯機で弱い洗濯ができる
	・液温は40℃を限度とし、洗濯機で洗濯ができる
	・液温は40℃を限度とし、洗濯機で弱い洗濯ができる
	・液温は40℃を限度とし、洗濯機で非常に弱い洗濯ができる
	・液温は30℃を限度とし、洗濯機で洗濯ができる
	・液温は30℃を限度とし、洗濯機で弱い洗濯ができる
	・液温は30℃を限度とし、洗濯機で非常に弱い洗濯ができる
	・液温は40℃を限度とし、手洗いができる
	・家庭での洗濯禁止

②漂白の仕方について

	・塩素系及び酸素系の漂白剤を使用して漂白ができる
	・酸素系漂白剤の使用はできるが、塩素系漂白剤は使用禁止
	・塩素系及び酸素系漂白剤の使用禁止

漂白関係のマークは△で表す。
塩素系、酸素系の漂白剤の使用可否に応じて中の表示が変わる。

真ん中の数字は温度を表す。
表示の下線は洗濯をする際の強さを表し、
一で弱く、二では非常に弱くとなる。

③アイロンの温度について

	・底面温度200℃を限度としてアイロン仕上げができる
	・底面温度150℃を限度としてアイロン仕上げができる
	・底面温度110℃を限度としてアイロン仕上げができる
	・アイロン仕上げ禁止

真ん中の・は温度を表し、増えるごとに高い温度でのアイロンがけが可能となる。
ただし、繊維によっては温度管理が細くなるため注意が必要である。よく確認することが大切となる。

真ん中の・は温度を表し、増えるごとに高い温度でのタンブル（回転）乾燥可能となる。
表示によっては、ドライクリーニング禁止と間違えやすいのでよく確認すること。

④乾燥の仕方について（タンブル）

	・タンブル乾燥ができる (排気温度上限80℃)
	・低い温度でのタンブル乾燥ができる (排気温度上限60℃)
	・タンブル乾燥禁止

⑤洗濯物の干し方について

	・つり干しがよい
	・日陰のつり干しがよい
	・ぬれつり干しがよい
	・日陰のぬれつり干しがよい
	・平干しがよい
	・日陰の平干しがよい
	・ぬれ平干しがよい
	・日陰のぬれ平干しがよい

1 かーでつり干しか平干しかを表す。
 11⇒2 本線になるとぬれ干しが可能となる。
 □の中に斜線が入ると日陰を表す。

⑥ドライクリーニングの仕方について

	・パークロロエチレン及び石油系溶剤によるドライクリーニングができる
	・パークロロエチレン及び石油系溶剤による弱いドライクリーニングができる
	・石油系溶剤によるドライクリーニングができる
	・石油系溶剤による弱いドライクリーニングができる
	・ドライクリーニング禁止
	・ウェットクリーニングができる
	・弱い操作によるウェットクリーニングができる
	・非常に弱い操作によるウェットクリーニングができる
	・ウェットクリーニング禁止

○の中の表示で使用できる溶剤が変わる。
 P の表示はドライ用溶剤の制限はないが、P は石油系の指定があるので注意すること。下線は強弱を表す。

W はウェットクリーニングを表す。
 詳細については下の点線のとおりである。

ウェットクリーニングとは、本来ドライクリーニングをすべき衣類（洗濯絵表示が手洗い×の表示の衣類）を水を使って洗浄する方法のことである。水で洗うという部分は同じではあるが、ランドリークリーニングとは工程が異なるので、区別して覚えること。

☆コース内での受付だけでなく、クリーニング師試験，家庭での洗濯にも役立つことなのでしっかりと覚えよう！

